

資料 8 別紙 D

平成 29 年度「中小企業・小規模事業者決済情報管理支援事業」

モデルプロジェクト公募要領 別紙

ZEDI シミュレータ概要
(案)

中小企業・小規模事業者決済情報管理支援事業（以下、「本事業」という。）事務局は、全銀 EDI システム（以下、ZEDI という。）の模擬応答機能（以下、「ZEDI シミュレータ」という。）を本事業にてモデルプロジェクトとして実証検証を実施する EDI・アプリケーションサービスプロバイダー（以下、「ESP」という。）に利用提供します。

1. 目的

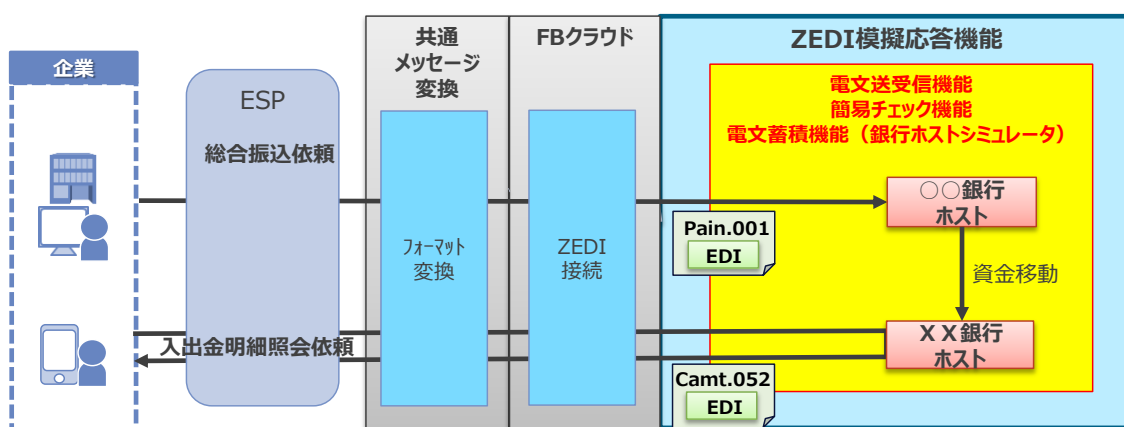
全銀 EDI システム（ZEDI）（※）は 2018 年 12 月に稼動予定ですが、本格的に接続し利用できるのは 2019 年 1 月末以降となることが想定されます。このため、本実証においては、共同利用システムにて ZEDI および金融機関ホストに代わり、模擬応答を行う機能を構築し提供することで、各実証プロジェクトの円滑な調査実証の実施をサポートします。

※全銀 EDI システム（ZEDI）とは、企業間送金指図において、既存固定長から XML 電文への移行を実現し、EDI 欄を大幅に拡張することで、明細等の内訳情報（金融 EDI）を同時に送信可能とするシステムです。現在、全銀システムの運営主体である全国銀行資金決済ネットワークが構築を進めており、2018 年 12 月の稼動を目指しています。詳細：

<https://www.zenginkyo.or.jp/abstract/efforts/smooth/xml/>（全国銀行協会 WEB サイト）

2. 機能概要

ZEDI 模擬応答機能の概念図ならびに機能概要を以下に示します。



ZEDI 模擬応答機能 概念図

	機能	機能概要
1	電文送受信機能	FB クラウドと XML データ（Pain.001 および Camt.052）の送受信やエラー通知を行う。 ※原則、ZEDI の API 仕様書に準拠します。
2	簡易チェック機能	ZEDI の接続条件に適合しているかどうかのバリデーションチェック等を行う。 ※原則、ZEDI の API 仕様書に準拠します。
3	電文蓄積機能 （銀行ホストシミュレータ）	模擬金融機関ホストを構築し、ESP より総合振込依頼受付時に受信した XML データ（Pain.001）を蓄積する。入出金明細照会依頼受付時に（Camt.052）を返却する。

ZEDI 模擬応答機能一覧

3. 制約・留意事項

本機能は本実証用のシミュレータ機能のため、ZEDI や各金融機関の FB サービスの仕様と異なる場合がありますので予めご了承ください。

（主な制約・留意事項）

- ・ ZEDI 模擬応答機能における提供業務は「総合振込（FB チャンネル）」および「入出金取引明細（FB チャンネル）」とします。
- ・ 総合振込においては振込指定日の期日チェックは行いませんので、振込指定日は過去日でも問題ありません。
- 入出金明細照会依頼においては依頼日以前の照会データを返却します。なお、再照会機能はありません。
- ・ 利用可能な金融機関は共同利用システム側が指定します。原則、1 企業につき 1 金融機関となります。口座情報や FB 伝送制御情報（センタ確認コード等）は共同利用システムより払い出す前提です。
- ・ 口座情報は電文蓄積機能では極力管理しない方針ため、口座の残高チェックは行いません。
- ・ 通常、ZEDI と接続する場合は全銀ネットよりクライアント証明書を発行いただく必要がありますが、ZEDI シミュレータにおいては、共同利用システム側でクライアント証明書を発行し、FB クラウドに格納します。このため、ZEDI シミュレータに関しては、クライアント証明書の発行・取得を意識いただく必要はありません。

以上